

天下三名槍 御手杵

敵兵の首級を幾度も討ち取った
戦国の武將 結城晴朝の大槍

OTEGINE



天下に誇った幻の名槍 「御手杵の槍」

御手杵の槍は、「天下三槍」のひとつに数えられる名槍で、室町時代に活躍した下総国結城の大名・結城晴朝が、駿河国嶋田の刀工、五条義助に造らせました。穂(刃長)は約138cm、拵を合わせた総長は約4.2mと、桁外れの大きさを誇ります。当時の鍛造はすべてが手作業でしたが、その技量の高さが伺えます。

ここに御手杵の名の由来があるとされています。晴朝の後は、養嗣子・結城秀康に伝わり、さらに後、秀康の五男で結城氏の家名を継いだ直基の子孫、松平大和守家(前橋・川越松平家)に伝来しました。残念なことに実物は、東京大空襲により焼失しましたが、2002(平成14)年に有志や研究者らによって復元され、名槍の迫力を今も眼前で見ることができるようになったのです。

御手杵鞘(復元品)

御手杵の槍(復元品) 時代 戦国時代 穂先長 約139.4cm(焼失前の実物は約138cm) 所蔵 結城蔵美館

関東の名族・結城氏

結城氏は、平安末期から戦国時代にかけて活躍した名族です。藤原秀郷の末孫・小山朝光が、鎌倉時代に下総国の結城を領したことが、結城氏の始まりとされています。室町時代前期には「関東八厘形」の一つに列し、有力な大名として名を馳せました。

晴朝の代になると、豊臣秀吉の小田原征伐に参陣し、さらに徳川家康の次男で秀吉の養子となった秀康を養嗣子とすることで、豊臣・徳川両氏の信頼を得て結城氏の存続を図りました。

その後、秀康の後を継いだ直基が松平を名乗ったことから、結城氏嫡流の「下総結城家」の家名は失われました。しかし下総結城氏の祭祀は前橋松平家へと継承され、水戸や秋田には、庶流の結城氏が存続しました。

一堂に会した天下の名槍

結城家・松平家にゆかりのある埼玉県東松山市や群馬県前橋市などでも、レプリカが復元されています。

2019年には、全4本の槍が一堂に会すイベントが、結城で行われました。



イベントの様子

結城氏の系図



結城蔵美館 外観

撮影協力・所蔵

結城蔵美館

◎ 結城市大字結城 1330
☎ 0296-54-5123

「本蔵」と「袖蔵」の2つの建物を利用した資料館。「御手杵」は袖蔵2階に常設されています。



「袖蔵」2階 常設展示

「袖蔵」1階 展示室

A Great Phantom Spear "Oteginé Spear"

One of the "Three Great National Spears". In the Muromachi period (1336-1573), Gisuke Gojo, a swordsmith from Shimada in Suruga Province, handmade this spear by order of Harutomo Yuki, a daimyo of Yuki in Shimousa Province. The total length is about 4.2m while the blade is about 138cm long. It is named after the bear-skin sheath which looks like a pestle. Hideyasu Yuki inherited the spear from Harutomo, and passed it on to the house of Matsudaira Yamatonokami (Governor of Yamato Province) (House of Maebashi Kanagoe Matsudaira). The original spear was lost in the Great Tokyo Air Raid, and the current replica was made in 2002.

The Yuki clan, an illustrious family in the Kanto region

The Yuki clan were active from the end of Heian period to the warring states period (1185-1615). The head of the clan became a daimyo. The offspring of Hidesato Tokugawa Ieyasu, Hideyasu. The Yuki clan were allowed to continue by gaining the trust of the Toyotomi clan and the Tokugawa clan. After Naomoto, changed his name to Naomoto Matsudaira thereby ending the main family line of the "House of the Yuki clan Shimousa Yuki". However, relatives of the Yuki clan continued in Mito and Akita. During Harutomo's reign,